

2024年7月2日

各 位

会 社 名 株式会社リプロセル  
代表者名 代表取締役社長 横山 周史  
(コード番号：4978、東証グロース市場)  
問 合 せ 先 経営管理部マネージャー 鳥澤 雄一  
(TEL. 045-475-3887)

### 連結子会社 (REPROCELL USA Inc.) に対する補助金の交付決定に関するお知らせ

2024年5月13日付の「連結子会社 (REPROCELL USA Inc.) に対する補助金に関するお知らせ」でお知らせしたとおり、当社の100%子会社であるREPROCELL USA Inc. が、米国メリーランド州政府の外郭企業である Technical Development Corporation (TEDCO) の運営する Maryland Stem Cell Research Fund (MSCRF) による補助金 (以下、本補助金) の受賞者に選定されておりましたが、この度、本補助金のうち以下のプロジェクトに関する契約が両者間で締結され、交付が決定しましたので下記のとおりお知らせいたします。

なお、本補助金の対象となるもう一つのプロジェクトに関しましては、すでに契約が締結され2024年6月26日付の「連結子会社 (REPROCELL USA Inc.) に対する補助金の交付決定に関するお知らせ」でお知らせしております。

#### 記

当社では、米国食品医薬品局 (FDA)、欧州医薬品庁 (EMA)、日本の医薬品医療機器総合機構 (PMDA) が定める規制基準に準拠した臨床用 iPS 細胞 (StemRNA™ Clinical iPSC Seed Clones) の製造を行っており、世界の多くのバイオ医薬品企業によって評価されています。本補助金を活用し、臨床用 iPS 細胞だけでなく、さらに、iPS 細胞から分化誘導した臨床グレードの間葉系幹細胞 (iPSC-MSC) の製造技術の開発を、米国メリーランド州の当社子会社 REPROCELL USA Inc. にて実施します。

iPSC-MSC は、iPS 細胞の状態で大規模に拡大培養し、その後、間葉系幹細胞に分化させて製造するため、単一ドナーの iPS 細胞から半永久的に大量の間葉系幹細胞を製造することが可能となります。このため、ドナー間差及び培養スケールの課題を克服することが可能となります。

間葉系幹細胞は、急性移植片対宿主病及び脊髄損傷等の治療で使用されており、さらに、その他の疾患でも多くの臨床試験が進められております。また、間葉系幹細胞の培養上清液に含まれるエクソソームの臨床応用も幅広く進んでおり、間葉系幹細胞は、再生医療等製品の原材料として大きな需要が見込まれています。

#### 【本補助金の概要】

プロジェクト名: Generation of human iPSC and MSC (Mesenchymal stem cell) master cell banks and derivative products in an enclosed GMP system

期間: プロジェクト開始から 12 か月間

補助上限額: 合計 394,005 ドル (約 63 百万円) ※ 1 ドル=161 円にて換算。

2025年3月期の連結業績予想に変更はありません。業績予想は本補助金の受賞が決定していない段階で行ったため、受賞の蓋然性を考慮し、上記補助上限額のうち一部を除外した上で予想に含めておりました。この度、当該除外金額も業績予想に織り込みましたが、将来における市場や経済の動向が損益に及ぼす影響等、不確定要素があることを考慮し、現時点では業績予想の修正は行っていません。

なお、当社の再生医療等製品の製造プロセスを担う拠点として、この度の当社子会社 **REPROCELL USA Inc** に加えて、神奈川県が川崎市殿町地区に設置したライフイノベーションセンター（LIC）内に再生医療用の細胞加工を行う「殿町・リプロセル再生医療センター」、当社が戦略的出資をおこなっているヒストセル社（スペイン ビルバオ）、iPS 細胞及び再生医療等製品の受託製造事業に関して基本合意書を締結している **BioBridge Global** 社（米国テキサス州）があります。

当社では、引き続き顧客の多様化する技術ニーズや引き合いに対応するために、再生医療等製品に関わる受託製造事業をさらに拡充してまいります。

以上